

乙女高原が好き！1104号

第12回草刈りボランティア・・・・・・・・・・2011年11月23日

刈り草を草原再生のために再利用



乙女高原最大のイベントである草刈りボランティアが今年も無事終了。今まで雨で中止は一回もありません。晴の特異日なんでしょうか。245人の参加者が「乙女高原の草原を守る！」を合言葉に、秋の終わりの草原で、気持ちのいい汗をかきました。

準備のために少し早く乙女高原に着いたのですが、暖かいです。以前、草刈りの朝、ベンチの上一面に針のような足の長い霜が付いていたのを覚えています。今朝も霜は降りていますが、遠慮がちな足の短い霜で、寒さを感じません。

さて、今年の新機軸は、なんとといっても、刈り草をゴミ収集車を活用して琴川ダムの残土処分場に運び込み、ここに乙女高原のような草原を誘導してしまおうという「藁撒き」プロジェクトです。

草原の維持のためには、刈った草は持ち出すのが原則です。昔は持ち出した草を肥料や飼料として活用していました。というより、活用するために持ち出していて、それによって結果的に草原が維持されていました。今はそのような「草の活用策」はなく、使われない刈り草は、ただのゴミです。

ところが、このゴミを有効利用できる策があったのです！琴川ダム建設の折に大量に出た残土の処分場に刈った草を運び込んで、ここの緑化を促進しようというアイデアです。

山の谷部を埋め立てたこの処分場はサッカーコート4面分ほどの広さがあります。木を植えて緑化しようと試みたようですが、残土だけあって養分に乏しく、十分に根付いていません。ここに乙女高原の草のたねを供給すれば、より早く、より確実に、外来種等ではない、この地に本来あるべき植物たちによる草原を創り



「草刈りボランティア」にひとこと

今日はとても楽しく、キッズ隊も作業分担がスムーズに流れて子どもたちがお喜びで怪我もなくブナ爺さんの枯れ葉の布団で寝たり和気あいあい楽しんでいました。本当にありがとうございました。人間って素晴らしい！自然を思う気持ち、乙女高原はみんなに愛されていますね。これからもこの素晴らしさを伝えてゆきたいです豚汁とても美味しかったです！（スタッフの宮川さん）

ファンクラブの主題と言える草刈りが無事、成就出来た事に皆様に感謝致します。私もやっと草刈りの範囲・境目、人の動き等が把握出来る様になったと思い、又それが一層乙女高原への愛着が深まったと思います。参加者に作業の手順を理解してもらい難しさと、それを伝える担当者の責務感。遊歩道に敷き詰められたはずの草が運び出しの時にはいつの間にか無くなっていました。あらゆる面での監督の目と余裕が必要と思いました。これからの一年の高原の変化が楽しみです。

（スタッフの松林さん）

私は植物や動物も好きですが、一生懸命働くおじさんの姿や、豚汁をつくるお婆さんの表情、乙女高原で出会ったそういうものも、とってもすてきだと感じました。そんな人と人、人と草原、草原と動物たちみんないるから、みんなつながってるから乙女高原なんだと思うと自然と人が別ものではないように思えてきます。また乙女高原でいろんなこと感じたり考えたりしたいです。

（麻布大学野生動物学研究室の加古さん）

第3に、積み下ろし作業です。少ない人数で積み降ろした草を実験区に運び入れたり、余った草をまき散らしたりしていたのですが、これがなかなかの重労働。昼食前くらいにはみんなグロッキーになっていたそうです。一方、「帰りがけに残土処分場で草運びをしてください」と呼びかけたところ、多くの方が参加してくださり、作業が一挙に進みました。人数配置のタイミングを工夫する必要がありそうです。

いずれにしても、草の積み込みに時間がかかってしまい、担当の田丸の皆さんがなかなかお昼ごはんにありつけなかったのが、申し訳なかったです。

ほかにも、キッズボランティアでは、3日前の準備の際には林道にたくさんの落ち葉があったのに、当日はその落ち葉がなくなっていて、遠くまで落ち葉拾いに出かけるハメになった・・・というミステリアスな事件があったそうです。このようにいろいろな課題が明らかになりましたが、245人の参加者全員が、けがもなく無事作業を終えることができ、本当によかったです。竹居さんと藤巻さんの愛情たっぷりのとん汁は、今年も大好評でした。いろいろな団体の方々に参加してくださっているのも心強い限りです。名簿上分かるものを列記すると、以下ようになります（順不同）。本当にありがとうございました。来年もまたよろしくお願いします。

金峰前山保護組合

北奥千丈保護組合

西保財産区

峡東地区県有林造林推進協議会

西保下財産区

倉科財産区

諏訪財産区

山梨市観光協会牧丘支部

田丸

ジェイチーム

山梨ロータリークラブ

山梨県シルバー人材センター連合会

成城学園年輪会

山梨県立大学

東京農工大学

麻布大学

出すことができます。そして、草原になれば、森への遷移もスムーズに進むはずで。しかも、都合がいいことに、処分場はシカよけのフェンスで完全に囲まれており、シカの食害を防ぐことができます。

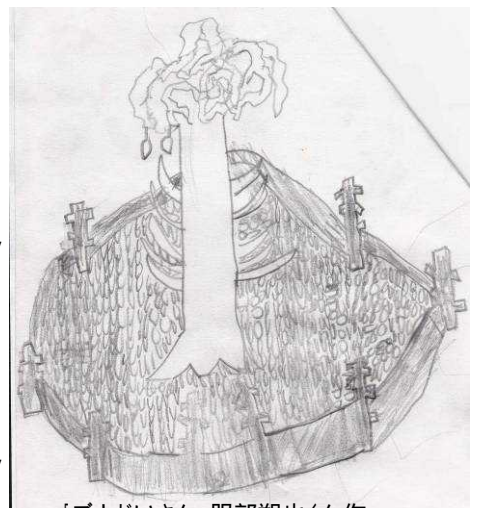
草を運び込んで植生の再生あるいは創出を促すという「藁撒き工法」のアイデアをいただいたのは東京農工大の星野先生です。星野先生からは「藁撒きの実験とモニタリング調査をしたい」というご提案もいただき、事前に残土処分場内に実験区を設定し、植生調査も済まされていました。

大量の草を効率的に運ぶのに軽トラでは荷が重いです。そこで注目したのが、毎年たくさんの社員の皆さんが乙女のイベントに参加くださる（株）田丸のゴミ収集車です。お話したところ、快く提供していただけることになりました。本当にありがたいことです。

実際に藁撒きに取り組めたことは大きな成果で、乙女の草刈りに新たな一歩を記した記念すべきことではありましたが、初体験だったこともあり、大きな課題も残りました。

第1に、ゴミ収集車はたしかに大量の草をいっぺんに運べて便利ですが、積み込むのに時間がかかったことです。出す時は収集車のふたをパカッと開けて、ドバッと出すのですが、積み入れる際には、少しずつギュッギュッと詰め込んでいくので時間がかかります。ですから、もっと早い時間帯に積み込みを始めるべきでした。

第2に、林道の路上駐車です。草原脇の林道に草を出してごみ収集車に積み込むので、林道をかなりふさいでしまいます。路上駐車があると、さらに状況は悪化。車が来たら、いちいちごみ収集車をバックさせなければなりません。来年は路上駐車は絶対に禁止です。



「ブナじいさん」服部朔也くん作



本物のシカには会えなかったけど、こんなに沢山シカの跡

乙女高原ファンクラブ初のシカ観察会。参加者は8人。まず、シカについて知っていることやイメージを自由にホワイトボードに書いてもらいました。意識のある方ばかりで、レベルの高い解答でした。

- ・昔は生態系の中でバランスがとれた存在だったが、現在急増し、植生に対して圧迫を加え、全国各地で問題が生じている。
- ・シカみたことある。山梨市内で道路を横断。乙女から帰るとき。山の道の途中、子鹿。
- ・3年くらい前にシカに車がぶつかりそうになった。親子でいた。当てて、捕ろうとしたが、やめた。
- ・動物園で実物を見た。食痕を確認したことがある。
- ・足が強靱。角は強精剤。夜、車のライトで目が光る。鳴き声はちょっとスリラー。
- ・夜行性の面も強く、ある程度の集団で夜、行動をする。・・・など

次に、シカがどんな動物であるか、大判の写真を見てもらいながら、説明しました。まず口。前歯は下顎にしかないの、それで幹を削ると、まるでのみか彫刻刀で掘ったような跡がつく。次に胃。胃の中に微生物を飼っていて、この微生物がセルロースまで分解してくれるので、基本的に植物だったら何でも食べられる。反芻といって、(安全なところで)食べたものを口に戻してもう一度かみ砕くことができる。糞はポロポロ型。そして蹄。ヒトでいうと、中指と薬指の2本だけで立っていることになる。細い足と蹄なので、深い雪だったら足が雪に刺さってしまい、最悪、動けなくなる。シカは雪が苦手。角は毎年生えかわる。秋になると、角を幹にこすりつける。

説明後、観察に出発しました。説明されたことを手がかりに自然を観察すると、シカの姿が見えてくる・・・という寸法です。最初の観察ポイントはロッジ前のベンチから歩いて20歩のところ。林道の両脇に植えられたウラジロモミ。中には、枯れているものもありました。木の幹をよく見ると、皮がはがれているものが幾つもあります。シカの皮剥ぎです。これを確認したのは今年の4月。そのときはまだ傷が新しく、木の幹と傷の色の差が鮮明でした。写真を見てもらいました。皮剥ぎから1年半で枯死してしまうんですね。



森のコースを登りました。途中、ヤマナシの木に寄りました。お目当てはヤマナシの実だったのですが、やっぱり多くの目があると違いますね。たくさんのシカ糞を見つけました。富士山に見える丘が二番目のポイント。「さあ、ここが観察ポイントです」といっても、ピンとこないと思います。だけど、7年前に同じ場所を撮った写真と比べると・・・、一目瞭然。笹原が後退しているのがわかります。一部、笹が剥げてしまって、土が露出しているところもあります。これらもすべてシカの仕業だと考えられます。

そこから草原コースのてっぺんを通過して、いつもなら草原のコースを下るところですが、今日はそのまま尾根道を進んで、林の中を通過してツツジのコースに出る道を選びました。ミズナラ-ダケカンバ林の林床に笹が繁っています。ここの笹、以前は(どのくらい前かははっきり覚えていませんが)ぼくの腰ほどの高さだったのですが、今は膝以下どころか足首の高さです。しかも、なんだか芝刈機のようなもので刈り揃えられたように高さが一定です。これもシカの影響でしょう。ここが三番目の観察ポイントです。

ツツジのコースを下り、小さなシカ柵の近くで、森の中に入りました。ここでまたシカの影響を探してもらいました。びっくりですよ。すべての木にシカの影響が見られます。角研ぎの跡、外周を全部剥がされ、枯死したウリハダカエデ、根元が削られたウラジロモミ。シカが森に与える影響の大きさが体感できます。

その後、シカ柵の様子を見たり、成城大学の山小屋わきの枯死してしまったマユミを見てもらったりしながらロッジに戻ってきました。途中、排出ホヤホヤのシカ糞発見。シカ糞の横腹に穴が開いていて、中身がぼじくり出されています。糞虫のしわざです。そうやってロッジに帰ってきました。

最後に、今日の観察会でわかったことや気づいたこと、感想をホワイトボードに書いてもらいました。

- ・シカが笹を食べるとは知らなかった。
- ・シカさんの食べた跡をいっぱい見る。枯れた木がたくさんある。何もかも食べてしまう。
- ・あちこち木が枯れてしまっていて驚いた。もとは腰であった笹原が足首の高さにまで低くなり、全滅しかかっている。早く手を打ちたい。
- ・シカはわがままに自然を荒らしまくっているとは思えないのが今日の感想。・・・など



乙女高原星空観望会

乙女で星を見ませんか？

乙女高原ファンクラブ会員の皆さま。はじめまして。

私“乙女高原星空観望会”の運営に携わっています小林と申します。私たちは乙女高原（正確には乙女高原近く）で星をみる会を定期的に行っているものです。まずはこの会の紹介をさせてください。

現在、首都圏に住む人間は星をみる場所（星が綺麗に見え、かつ安全に望遠鏡を設置できる場所）を地方に求めざるを得ない状況です。都市部の空は、何千万光年かなたからやってくる、ほのかな光を捉えるには明るすぎるのです。星空観望には暗い空が不可欠なのです。ですがそんな場所の詳細な情報はあまり大っぴらに公表されてきませんでした。それはもし安易に公表してしまうと、いろいろなトラブルが起こる原因となってしまう、その結果その場所では観望できなくなってしまふ - そんなことを危惧しているからなのです。実際にその様な事例が少なからずあったそうです。今まで、天体観望を趣味とする人間（特に首都圏に住む人間）は、そうならないように良い場所は仲間うちで秘密にしておくか、そうなったらまた別の場所へ出かけていく、ということが多かれ少なかれやってきました。選択肢がいろいろあったことも原因のひとつかもしれませんが、『消極的な行動』と揶揄されても仕方のない姿勢だったと思います。私たちはそのような事例に鑑み、自らにとって最も大切な“暗い空”と“安全に星空観望ができる環境”を守り、秩序あるかたちで発展させていく行動なしに、この趣味の発展は望めないと考えるようになりました。

偉そうなことを言っていますが、正直に申し上げれば、この観望会を立ち上げる以前からそんな想いを抱いていたわけではありません。何度かこの乙女高原で観望会を重ねるうち、徐々に湧き上がってきた想いなのです。まず、私たちは自ら（首都圏に住む者）にとって乙女高原ほど星空観望するのに好条件の場所が、他にはないことに気付きました。首都圏から比較的近くにあり、安全に観望できる環境がありながら、それでいて空が暗いのです。また、あの場所に立つと理屈なしに「とにかく気持ちいい！」のです。自然が豊かなことが原因の一つでしょうけれど、あの開放感を東京からこんなに近くで味わってしまうと、ちょっと不思議な気分になるほどです。さらに夜にはあの美しい天の川。こんな経験を重ねるうち、この場所をただ自らの趣味に活用していただけた私たちにも『こんなによい場所を末永く存続させたい！』という想いが芽生えてきたのです。そしてそんな想いをカタチにするため『乙女高原星空観望会』を立ち上げました。

この観望会の名称を決めるとき、「乙女高原」の文字を頂くかどうかで少々悩みました。無責任に大っぴらにして天体観望場所としてダメになってしまうどころか、近隣の方たちにご迷惑をお掛けしてしまうのでは、との不安が拭えなかったからです。しかし「自らの趣味に活用するのみではなく、この場所を末永く存続させるため何かしら行動しよう！」という姿勢を忘れないために、あえて「乙女高原」の名前を頂きました。ただ現実には、私たちだけでいったい何ができるのでしょうか。『星が綺麗に見える場所を守り、秩序あるかたちで発展させる』という理想はあっても、何から行動すべきなのか？見当もつかず考えあぐねている状況でした。いろいろな方に相談を持ちかけ、ご意見を伺い、まずは地元の方々や、ずっと以前から乙女高原に関わってこられた方々と積極的に交流させて頂くことから始めようと思いついたのです。

そんなことをしているうち話はトントン拍子に進み、他の催しで知己を得た地元の方々や山梨市役所の皆さま、そして金峰山荘の水上様や、もちろん植原様の厚意により、今回乙女高原ファンクラブの皆さまにご挨拶できる機会を得ました。私たちも「乙女高原の自然を次ぎの世代へ」という活動に微力ではありますが参加させて頂き、乙女高原について勉強していきたいと思っています。そしていつの日かお互いの得意分野を生かし、なにか出来ればと考えています。“乙女高原星空観望会”は未だ出来てまもない組織ですから会長などはおりませんが、今回は私、小林秀道が代表してご挨拶させて頂きました。今後とも宜しくお願い致します。そして今回この機会を作って頂くにあたり、ご苦勞頂いた皆さま、この場をお借りしまして御礼申し上げます。

最後になりますが、星をみてみたい！と思っておられる方がいらっしゃいましたら、是非“乙女高原星空観望会”にご参加下さい。星の知識がなくても、もちろん望遠鏡など持っていなくてもご参加頂けますし、十分楽しんで頂けると思っています。（詳しくは“乙女高原星空観望会ホームページ” <http://otome.sblo.jp/>）



希少昆虫の宝庫・乙女高原の今



いつもそうなのですが、乙女高原ファンクラブの活動は多くの方のご協力によって成り立っています。市・県・ファンクラブのスタッフの方々、参加した皆さん、「ようこそ展」の展示作業に集まってくださった方々...。そんな中からいくつかピックアップします。

まずはゲストの槐さん。このフォーラムのためにさまざまな資料をまさにかき集め、そればかりか、打ち合わせのため、会場での機材のセッティング試験のため、乙女高原でのビデオ撮影のためと、何度も山梨に来ていただきました。世話人会にまで出席して下さったんですよ。

次に、昆虫のクラフトワークショップを企画・運営して下さった原さんと依田さん。インフルエンザで子どもたちの参加がどうなるか心配だったのですが、お二人のクラフトコーナーにはたくさんのお子が集まってしまいました。せっかく同じフロアでやっていただいたのですが、お二人にはとても槐さんのお話を聞いている余裕はなかったようです。

最後は、ちらしと昆虫パズルのグラフィックデザインをして下さった杉田さん。じつは、槐さんとフォーラムの打ち合わせをするときに、杉田さんにも同席していただき、いろいろとアイデアを出し合っていたら、「乙女高原の青い空にハテナ(?)マークの大きな窓が浮かんでいて、窓の向こうにたくさんの虫たちが見える」というあの印象的なデザインが、それこそ自然に杉田さんの頭に浮かんだんだそうです。単純だけど、奥が深くてすごくおもしろい「昆虫パズル」も杉田さんのデザインです。

フォーラムの1日ですが、いつもの年のようにスタッフは11時に集合し、打ち合わせ後、準備作業に入りました。今回はゲストの槐さんがその1時間前から機材を持ち込み、セッティングに余念がありませんでした。交代でお弁当を食べながら準備を進め、12時半受付開始。そして、1時からスタートです。

1時間目はおもに子どもむけ。多くの子どもたちが見やすいようにと、会場の前のほうにカーペットを敷いて直座りできるようにしました。このカーペットは山梨市の観光課で探し出してきていただきました。ところが、インフルエンザ大流行のためか、この特別席には数人のちびっこしかいない状況。しかも、小学校入学前の小さな子がほとんどで、小学生を想定していた槐さん、ちょっとやりづらそうでした。でも、そこはやっぱりプロだし、4人のお子さんの「イクメン」だけあって、上手に軌道修正していました。1時間目の終了とともに、会場の後ろのほうでクラフトコーナーが店開き。チョウたちの実物大の標本箱のようなデザインの壁掛けを作るコーナーと、虫の形をいろいろな木や葉などで作るコーナーがあり、大人気でした。

2時間目は基本的に大人むけの話。会に先立って市長さんのメッセージが朗読され、乙女高原ファンクラブの1年間の活動紹介のスライドを見ていただいた後、いよいよ槐さんのお話です。槐さんが収集した膨大な山梨の昆虫データをもとに、乙女高原にいる昆虫の話、草刈りと昆虫の多様性の話、乙女高原で絶滅の恐れがある昆虫の話などをしていただきました。

閉会式が終わり、片づけをさっさと済ませ、恒例の「ゲストを囲んでの茶話会」を和やかに行いました。途中、一人一言コーナーではフォーラムの感想、乙女高原への想いなどを自由に語っていただきました。

恒例となった山梨市民会館ロビーでの「ようこそ乙女高原へ」展も好評のうちに終了しました。



槐さんの1時間目 ムシムシワークショップ (子ども向けのお話)

(標本箱を見せて)ここにたくさんのクワガタがいます。この会場の周辺にはコクワガタというのがいるけど、こんなに大きくてカッコいいミヤマクワガタもいるのが乙女高原です。乙女高原には245種類の昆虫が見つかっています。

でかく見ると怪獣みたいな2匹の虫、上のと下のとで違いがあるんだけど、どこかわかるかな?...おー、正解。おひげ(触角)の形が違います。膨らんでいるほうが男、こっちは女です。この虫は春先、地面を歩いているのが見つかります(ヒメツチハンミョウ)。

このチョウに名前を付けるとしたら、どんな名前にする? 目玉模様がクジャクの羽根のようなので、クジャクチョウといいます。でも、なかなかみつからないんだよ。なぜかという、チョウは翅を閉じて止まっていることが多く、閉じると目玉もようのない翅の裏側が見えてしまうからです。モンシロチョウくらいの大きさです。

今、この寒い時期にも乙女高原には虫がいるのかねえ。じつは、さっき話をしてくれたウエハラさんが中継で乙女高原に行ってくれています。もう中継が通じますかねえ(と、昨年末に乙女高原で撮っておいたビデオを流す)

寒いと虫は動けなくて、どこかに隠れています。なかなか見つからないんだけど、枝先にこんなのが見つかったんだよ(...と、子どもたちを集めて、見せる)。卵かなあ、繭かなあ。この中にはガのさなぎが入っていたんだよ。成虫はこんな姿。翅に白い丸が見えるけど、よく見ると、そこは透明。ウスタビガといいます。ウスタビガは会場近くにもいるけど、乙女高原にしかいなくて、夏の1週間くらいしか見られないガもいます。

乙女高原の建物(グリーンロッジ)の中に虫たちは避難していると思います。探してみたら、こんなチョウチョがいたよ。超拡大してみましょう(...と双眼実体顕微鏡の画像をスクリーンに映す)。ザラザラしているように見えますね。せっかくだから、カメムシも超拡大してみよう。カメムシは臭いんじゃないよ、木や草の汁を吸っているの、ちょっと個性的な植物の匂いです。口を見ると、こんなふうに針みたい。このカメムシはお家の中にいました。

(2頭のアサギマダラの写真を見せながら)「違うところは?」と子どもたちに聞いたところ、やっぱり当たり! 翅の下に色の濃い部分があるのがオス、ないのがメスです。

草原にはバッタの仲間がいっぱいいます。乙女高原に一番たくさんいるバッタはすごく大きな声で鳴くんだよ(鳴き声も聞かせてくださいました)。ナキイナゴといいます。ナキイナゴのオスとメスの違いは、メスは体が大きくて、ほとんど翅がありません。オスはちゃんと長い翅があり、これで鳴きます。乙女高原にはほかにも鳴くバッタがたくさんいます。ヒロバネヒナバッタ、タカネヒナバッタです。ヒロバネ...は会場の近くにもいると思うけど、タカネ...は乙女高原にしかいません。体に比べて触角がとても長いキリギリスの仲間もいます。ムサシセモンササキリモドキ。5年前に見つかった新種です。

乙女高原は人が草をきれいに刈ってるの。草なんて刈らないほうが自然でいいと思う人もいるんだけど、草を刈るからたくさんのお花が咲き、草を刈るからチョウチョも増えることがわかっています。だから、草を刈って、「これでチョウチョが増える!」って、みんなでバンザイしているんだよ。草を刈っていると、普通見られないようなチョウチョも見られるようになります。今年の夏はぜひ、お家の人といっしょに乙女高原に行ってみてください。たくさんチョウチョが見られるよ。



ヒメツチハンミョウ。上がオス



ナキイナゴ。上がメス

槐さんの2時間目 希少昆虫の宝庫・乙女高原の今 (大人向けのお話)

槐(えんじゅ)の洋名はアカシア。珍しい名字ベスト10です。名字の絶滅危惧種です。この話は去年の3月13日にする予定でしたが、例の大震災があってできませんでした。私は神奈川から乙女高原に虫を調べに来ています。実際は奥さんから「子どもをどこかに連れてって」と言われて、来ています。子守りのついでに昆虫を見ている。

乙女高原の虫を調べ始めたので、山梨全体の虫のことも調べ始めました。ぼくの調べ方は「だれかが調べて書き記した記録(報告書など)」を調べるというやり方です。岐阜県の名和昆虫研究所が出している「昆虫世界」という雑誌の中に山梨の虫が初めて紹介されています。メイガというイネの害虫の大発生報告です。昆虫図鑑に載っている昆虫として初めて山梨の名前があったのは今から80年前。オオチャイロハナムグリという珍しい虫です。国内3番目の記録です。

戦後、虫の研究では甲州昆虫同好会という会が山梨県内の昆虫を調査して「山梨の昆虫」という同誌に記録を残しています。「駿河の昆虫」もそうで、静岡の人が身延のほうから入ってきて、櫛形山あたりまでを調べて、記録を残しています。これらを読むと、山梨の昆虫のことがわかります。首都圏に近い山梨県には、神奈川や東京からも昆虫好きな人がたくさん訪れて、昆虫を観察し記録しています。

昆虫をやっている人の中には、採ってはいけないところで採っている人も確かにいます。でも、こういう雑誌に昆虫の記録を書いてくれている人は、ルールを守ってやっている人です。ルールを守ってやっているから、報告ができるわけで、

ルールを破ってやっている人は報告なんてできません。

乙女高原には成城学園の生物部の山小屋があります。乙女高原グリーンロッジに成城学園の生物部の方たちが残してくれた標本箱がありました。それを見て、ぼくは背筋が凍りました。ぼくが3年通って、見たことのないチョウが半数あったからです。1960年代の標本でした。フタスジチョウ、オオミスジ、ヤマトスジグロシロチョウです。

山梨県で虫を調べて記録した延べ日数を数えてみると、1970年代以降多くなっています。昆虫の同好会が盛り上がり、一般の人でも買える図鑑が出たりしたからだだと思います。1990年代、2000年代と少なくなっているのですが、やっている人が年をとってきたからだと思っています。それでも年間に1000日以上昆虫観察記録がある1980年代以降のデータを使えば、何かしらの傾向が言えそうな気がします。ある虫が増えて、ある虫が減っているということは安易には言えないけれど、調査の数が多くなれば、比べられるだろうという仮定のもとで話をしています。

ぼくが調べた結果、1980年代以降、山梨では昆虫観察記録がのべ8000日分あって、出てきた昆虫の種数は1540。千種を超えると多そうに思えますが、日本全国で4万種、神奈川県だけで1万種類を超えます。山梨はまだまだ調べられていない昆虫が多いことがわかります。昆虫の種類を仲間別にグラフにすると、チョウが一角を占めます。ですが、神奈川のグラフではチョウはずっと少なく、コウチュウがもっと多くなります。カメムシも多くなります。ですから、山梨の昆虫をもっと詳しく調べるためにはコウチュウの専門家とカメムシの専門家を投入するのが早道なのかもしれません。

乙女高原を見てみると、245種類の昆虫の記録がありました。山梨市全体で329種類ですから、山梨市で記録された昆虫の3/4以上は乙女高原で記録されています。こういう自然の記録を集めていくと、特別に大切な場所の記録が多くなってきます。山梨市にはほとんど昆虫調査には入っていないのですが、それでも乙女高原の記録がダントツ多いということは、山梨市の中で乙女高原というのはとても大切であることを示しています。虫を愛でる人たちにとっては乙女高原はとても魅力的な場所であり、山梨市の中で乙女高原のエリアが失われてしまったら、観光資源としても、生物多様性という観点からも大きな損失になると考えられます。

乙女高原の昆虫の構成を見ると、やはりチョウやガが多いです。愛好者が多いですからね。ぼくの先輩の原さんに電話で「乙女高原って知ってますか？」とお聞きしたら、「おまえはまったく知らない。チョウをやっている人で乙女高原の名前を知らないヤツはもぐりだ」と言われました。チョウチョをやっている人にとって乙女高原は聖地なんです。一方、ぼくの専門であるバッタやカメムシを見てみても、天然記念物にしてもいいくらいのものがいます。

2005年に山梨県のレッドデータブックが出ました。絶滅危惧種のリストなんですが、乙女高原の昆虫の中で、このレッドデータブックに載っているのは8種類。山梨市全体では12種類です。たかだか8種類と思わないでください。8種類もいるんです。ぼくが調べている神奈川県のフィールドでは5種類だけです。乙女高原には絶滅が危惧される昆虫がいるのですから、そのバックグラウンドとして、ほかの昆虫たちもいっぱいいるということです。

「バッタのためには草原の草刈りなんてしないほうがいいよね？」と聞かれることがあります。「そうだよ」と答えてしまいうんですが、本当のところはどうなのでしょう。経験的には、草を刈らない所より毎年刈った所のほうがバッタが多く、チョウチョも含めたほかの昆虫も多いです。この経験則は、昆虫を観察している人が異口同音に言うことです。

それは経験的に言えるだけでなく、それを支持する研究結果も出ています。山梨県環境科学研究所の北原先生は、富士山麓の刈った草原と刈らない草原でチョウチョの種類がどう違って来るかを長年に渡って研究されています。それによると、草刈りの度合いが大きくなれば、チョウの種類数が増えるそうです。チョウの種類を増やすためには、草刈りが効果的なんです。

草原にいるチョウには、草原専門のチョウとたまたま草原にいたチョウと草原と林を行ったり来たりしているチョウの3パターンあるんです。いくら草刈りするとチョウの種類が増えるといっても、もしかしたら草原専門のチョウは減っているかもしれません。北原先生はそれを心配して、草原専門のチョウについて調べられました。草刈りをしないと草原専門のチョウは増えるかという、増えません。草を一生懸命刈ったところのほうが数が増えています。

今年の草刈りで、刈った草をよそに持ち出すということをしたそうですね。それがいいか悪いかという議論もあるそうですが、その点についても研究されています。草を持っていった場合とそうでない場合を比べると、大差ないそうです。大差ないけど、あえて言えば持っていったほうがいいと、おっしゃっていました。

以上のことをまとめると、今、皆さんが乙女高原でやられている草原の管理というのは、まったく理にかなっていると自信をもっていただけだと思います。それは、北原先生の研究結果からも言えますし、静岡昆虫同好会の方も富士市で同様の研究をし、同様の結果がでていますし、阿蘇山での研究でも同じ結果がでていますので、おそらくこれは場所によって結果が違って来るという性格のものではなく、人間がかかわってきた草原という環境では、秋口に草刈りをして、その自然をリセットするというのが、その自然環境にとって一番しっくりしている形態なんだということが、昆虫の中でもおも



乙女高原に分布する草原性チョウ類 年次記録の推移

和名	60	70	80	90	00	10	RDランク
スジホソヤマキチョウ							
ゴマシジミ						×	絶滅危惧 類
コヒョウモン						×	準絶滅危惧
ヒョウモンチョウ							
ギンホシヒョウモン							
スグロチャハネセリ						×	準絶滅危惧
ハクグロチャハネセリ							
アカセリ							準絶滅危惧
オオチャハネセリ						×	準絶滅危惧

に草原との関係の深いチョウチョの研究によって裏付けられたということです。

コヒョウモンモドキというチョウチョがいます。かつては乙女高原にたくさんいたそうですが、ぼくが通った3年間に一度も見えていません。ほぼ絶滅状態ではないかと北原先生もおっしゃっていました。乙女高原での傾向をみると、1970年代からコヒョウモンモドキの記録があって、数もそんなに少なくなかったけれど、1990年代を境に、2000年代にはパツリいなくなりました。なんでいなくなったかという、蜜源である草がなくなってしまったことと、幼虫が草を食べますから、それがなくなってしまったことだと思います。草が無くなった原因として考えられるのはシカの食害です。また、草原の面積が減っていることも一因だと考えられます。



コヒョウモンモドキ

それだけでなく、コヒョウモンモドキがいなくなった原因として、違法な採集が考えられます。間違いありません。コヒョウモンモドキを徹底的に採ってしまったんです。あれだけ面積が小さくなってしまった乙女高原で、自由に昆虫を採らせてしまったら、今いるものも、おそらくどんどん少なくなっていくと思います。法的な採集禁止策を考えていけば、乙女の昆虫の今後の展望があると思います。皆さんが一生涯懸命草刈りしている成果が今後、見えてくると思います。



乙女高原フィールドガイド

乙女高原のスマイルウォッチング完成！

「乙女高原のお花たち」「マルハナバチ・ウォッチング」に引き続いて、「乙女高原フィールドガイド」の第3弾として、スマイルのフィールドガイドがついに完成しました。

「乙女高原フィールドガイド」は乙女高原で自然観察するときの手軽なお供になればいいな—と考へて作って来ました。カラー両面刷りの1枚紙をポケットサイズに折り畳んだガイドペーパーです。

以前から「乙女高原ではたくさんのスマイルが見られるよね」と、ファンクラブの中で話題になっていました。「それなら、本格的に調べて、フィールドガイドを作ろう」ということになり、乙女高原案内人の依田 昇さんが編集代表を務めることになりました。乙女高原で撮ったスマイルの写真を整理したり、乙女高原のスマイル花暦を作ったり、フィールドガイドに載せる内容を検討したりしました。昨年は3回のスマイル観察会を実施し、乙女高原のスマイルを実際に観察しました。じつは観察会のウラの目的は、フィールドガイド作成のためのサポーターを発掘することで、多くのスマイルファンと交流することができました。昨年、新たなスマイルを見つけることができ、結局、乙女高原は、亜種変種を含め18種類ものスマイルが花を咲かせる「スマイル天国」であることがわかりました。

じつを言うと、遅々とした編集作業が飛躍的に進み、しかも、事務局の想像をはるかに上回る出来ばえになったのにはヒミツがあります。グラフィックデザイナーであり乙女高原案内人の杉田 博さんが編集に加わってくださったのです。デザインを無償で引き受けてくださり、こんなにステキなガイドを、お得な費用で作ることができました。

「...スマイルウォッチング」は、乙女高原で見られる18種類のスマイルのプロフィールを紹介することはもちろん、スマイルウォッチングの基礎知識まで学べるスグレモノです。ぜひ、このガイドを片手に、春先の乙女高原で自然観察をお楽しみください。

「...スマイルウォッチング」は、乙女高原で見られる18種類のスマイルのプロフィールを紹介することはもちろん、スマイルウォッチングの基礎知識まで学べるスグレモノです。ぜひ、このガイドを片手に、春先の乙女高原で自然観察をお楽しみください。

わたしの大好きな花・スマイル。

スマイルは春、他の植物に先がけて花を咲かせます。冬の間、地下茎が栄養をしっかりと保存して茎や葉を支え、同時に、春早く春を感じとり、まわりの草や木が目覚める前に葉を出し、花を咲かせます。太陽のエネルギーを蓄え、小さく美しい花で虫を呼び寄せます。そんなスマイルに惹かれ、さまざまな所でスマイル観察してきましたが、乙女高原くらい多くのサクラスマイルに出会える所はないと感激し、足しげく通うようになりました。

ここに紹介したスマイルは、私たちが数年間にわたって乙女高原を観察してきた中で出会ったスマイル18種(品種を含む)です。私自身、一つの場所でこんなに多くのスマイルに出会えるとは思っていませんでした。とはいえ、乙女高原には私が見ていないスマイルもあるかと思っています。皆さんの中に、乙女高原でこれ以外のスマイルに出会った方がありましたら、乙女高原ファンクラブまで情報をお知らせください。

執筆・編集代表 依田 昇

乙女高原でスマイルと出会う。

5月上旬、乙女高原のほとんどの花はまだ冬の眠りから目覚めていません。ですが、草原を登りきったところ、山の案内板があるあたりは日当たりが良く、高原が一番早く春が来ます。ここで地面をよく探すと、アカネスマイルやマルバスマイルが迎えてくれます。明るい林の下ではアケボノスマイルが、夏になると真っ暗になるような林の下ではアイザンスマイルが見られます。

5月中旬になると、草原の日当たりのいい所から、「スマイルの女王」と呼ばれるサクラスマイルの顔を出し始め、6月になると乙女高原全面で咲き誇ります。こんなにたくさんのサクラスマイルが見られるところは他にはあまりありません。焼山峠のすぐ近くの林の中では、タチツボスマイル、ヒナスマイル、ミヤマスマイルの競演が見られます。

5月下旬になると、湿地でニオイスマイルが目立つようになり、大き(成長した草むらの中には背の高いエノノチツボスマイルが見られるようになります。このように、乙女高原では、ちょっとした季節の違い、環境の違いによって、いろいろなスマイルを見ることが出来ます。

●スマイルカレンダー

①期間(高尾) ②多摩湖(つり) ③乙女高原・花の駅(期間) ④葉刈り

中身をちょっとだけお見せします

「乙女高原のスマイルウォッチング」を実際に手にとって確かめたい方は乙女高原ファンクラブ事務局までご連絡ください。ご希望の方にはお送りします。

乙女高原ファンクラブ 2011年度

定期総会 と 座談会・テーマは「県のシカ管理」

3月11日(日) 午後2時
山梨市牧丘総合会館
3階大ホール



昨年度の総会の様子です

今年も定期総会の時期になりました。
「乙女高原の自然を次の世代に」を合言葉
に活動してきた乙女高原ファンクラブもいよいよ11年目に突入です。

総会では今年度1年間を映像で振り返り、来年度の活動計画を話し合います。「先進地に行って、活動の様子を見てきたい」「子どもたちとキャンプをしたい」「フォーラムに さんを呼びたい」など、アイデアを出し合ひましょう。

今回は特に世話人の改選はありませんが、「乙女高原の自然を次の世代に」確実に譲り渡すために骨を折っていただけるといふ方は、ぜひ立候補をお願いします。できるだけたくさんの方で支える乙女高原ファンクラブにしていきたいと思います。

同封の出欠ハガキに必要事項をご記入の上、早めに投函してください。総会は普通会員の過半数の出席（委任状も含む）が必要です。総会が流会になるようなことのないよう、ご協力をよろしくお願ひします。

なお、当日は「乙女高原のスマイル・ウォッチング」やフォーラムの「昆虫パズル」をお配りします。

座談会

話題提供者 **小俣 謙**さん（山梨県みどり自然課自然保護担当）

テ - マ 山梨県の野生動物（おもにシカ）管理の展望

2月7日の朝日新聞山梨版に「シカ狩猟数制限なくす」と記事が出ていました。山梨県環境保全審議会で、シカの捕獲数が現行の1日2頭から無制限に変更されることが承認されたそうです。

乙女高原でも課題になっている「シカによる植物の食害」ですが、今回は、山梨県のシカ対策の担当者である小俣さんから直接お話をお聞きします。ぜひ、多くの方にご参加いただきたいと思います。

【話の概要】

山梨県内のシカの現状（生息状況、被害状況、捕獲数等）
特定鳥獣保護管理計画について（目標、対策等）
シカ対策の課題と今後どう進めていくか

富士ゼロックス端数倶楽部さんより寄付金をいただきました

富士ゼロックス端数倶楽部は富士ゼロックスで働く人々や退職者による団体で、給料や賞与から100円未満の『端数』や個人の意志による口数を拠出して積み立て、他団体に寄付する等で資金を有効に役立てています。寄付には、会社から同額が上乘せされています。昨年の10万円(端数倶楽部から5万円、会社から5万円)に引き続き、今年も10万円をいただきました。この寄付金は乙女高原の自然を守るために大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

あいおいニッセイ同和損保さんより寄付金をいただきました

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社よりweb約款契約者数に応じた寄付金として今年6月の23,325円に引き続いて11月にも26,133円をいただきました。この寄付金は乙女高原の自然を守るために大切に使用させていただきます。ありがとうございました。

乙女高原ファンクラブの事務局だよ

2月5日、TBS関東ローカル局の「風の言葉」という2分半の番組で乙女高原の草刈りが放映されました。残念ながら山梨では放映されませんでした。動画投稿サイトで「風の言葉」と検索してみてください。

データロガーにより1時間おきに自動計測している乙女高原の気温概要です。やっぱり夏も涼しいですね。

単位	年平均気温	最高気温	最低気温
2010年	6.7	26.5	-13.0
2011年	6.1	25.5	-15.5

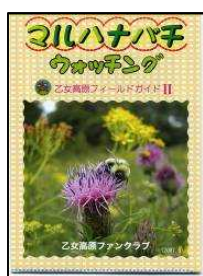
乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』(A4判186ページ)乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお付けします。1冊1000円、送料は一冊につき80円。欲しい方は郵便振込で一冊につき1080円分を送金してください。



乙女高原案内人 誕生と成長の記録
乙女高原ファンクラブ

乙女高原フィールドガイド シリーズ 欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイド スミレの観察のおともに『乙女高原のスマイルウォッチング』

(A3判両面カラー)乙女高原では、なんと18種類ものスミレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスミレたちのプロフィールを紹介するとともに、スミレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイド マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング』

(A3判両面カラー)マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。

フィールドガイド 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー)乙女高原フィールドガイドの第1号。春から秋にかけて咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈の表示や草花を一言で表したコメントが「分かりやすい」と評判です。

乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

乙女高原ファンクラブの会員には普通会员とサポーター会員の2種類があります。会報(ニューズレター)は年4回発行予定です。年に一度は全会員に送っていますが、この号も含め、あとの3号は普通会员にしか送っていません。

乙女高原ファンクラブに入会するには・・・

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」という内容のファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニューズレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

乙女高原ファンクラブへの連絡先

【事務局】植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3
TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp
会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。
WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

郵便振込 (番号)00220-8-71093 (加入者名)乙女高原ファンクラブ